

きのこ栽培用語

用 語	意 味
〔 一 般 〕	
菌 類	栄養を他の生物に依存して生活している“きのこ”や“かび”の類をいう
菌 蕈	目につきやすい大形の子実体をつくる菌類の総称で“きのこ”と同様で中国語に通ずる。
か び	子実体よりも菌糸が目につきやすい菌類の総称。
藻 菌 類	無隔菌糸を生じるかまたは菌糸を欠き、有性生殖により卵孢子あるいは接合孢子、もしくはこれらと類似の胞子を形成する菌類の一群。
子のう菌類	菌糸に隔壁を有し、有性生殖器官として子のうを形成する菌類の一群
担子菌類	菌糸に隔壁を有し、クランプをつくるものが多い。有性生殖器官として担子柄をつくる菌類の一群。
不完全菌類	有性生殖（完全）時代を欠くか、あっても発見されていない菌類の一群。
子のう	子のう菌類の有性生殖の結果生じる袋状の器官、一般に融合核が減数分裂して内に8個の胞子（子のう胞子）をつくる。
担子柄	担子菌類が有性生殖によって胞子をつくるための器官で、菌糸中の2核はこの中ではじめて融合し、減数分裂して4核となり担子柄上につくられる4個の胞子（担胞子）の中に入る。
胞 子	菌類が繁殖するためにつくられる生殖細胞で植物の種子に相当する。有性生殖によってつくられる胞子（担胞子、子のう胞子など）と無性生殖によってつくられる胞子（分生子、さび胞子など）とがある。
胞 子 紋	きのこの“かさ”をふせておくと胞子が落ちてひだや孔の模様ができる。これを胞子紋という。
菌 糸	菌類の体を構成する繊細な糸状の細胞または、この細胞がたて一列につらなったもの。
一 次 菌 糸	担子菌類において、担胞子が発芽して生じた単相の菌糸。各細胞は1核を有す。一核菌糸・単相菌糸ともいう。

用語	意味
二次菌糸	対応する性の一次菌糸が接合して、各細胞に2核を持つようになった菌糸。二核菌糸ともいう。
クランプ	二次菌糸が細胞分裂するとき、対をなした2核が同時に分裂するためにつくられるカスガイ状突起。
原基	子実体のもとになる菌糸の結合した固まりで、組織分化の進んでいない状態のもの。
芽	ある程度形態分化している菌糸塊で、幼子実体のこと。“つぼみ”ともいう。
子実体	菌類が胞子を形成するためにつくる組織化した菌糸塊、大形の子実体を一般にきのこことっている。
かさ	子実体の上部がひろがってかさ状になった部分で、裏面にひだ、孔または針などを有す。
ひだ	かさの裏面にできる刃状の器官で、この裏面に担子柄、担胞子をつくる。
あし	子実体の一部でかさをささえる柄。“くき”ともいう。
石づき	子実体のあしが土、あるいはほだ木にくっついている部分。
拮抗現象	異なる菌糸体が出合ったとき、相対抗して互いに屈せぬ現象。
木材腐朽菌	木材の主要成分であるセルロースやリグニンを分解し、栄養源として生活している菌類。
菌根菌	菌糸が植物の細根の細胞にはいりこみ（内生菌根）、または包み（外生菌根）こんで、植物と一体となって生活している菌類。
菌輪	同種のきのこが土俵のように輪をえがいて発生するようす。
共生菌	他の生物と結合し、一体となって共同生活を営む菌類。
寄生菌	他の生物の生きている細胞から栄養をとって生活している菌類。
殺生菌	他の生物の細胞や組織を自分で殺し、その部分から栄養をとって生活する菌類
腐生菌	生物の遺体あるいは排泄物などから栄養をとって生活している。

用語	意味
〔 原 木 〕	
原木	種菌を植え付け、きのこ栽培に使用する木。
秋伐り	樹木を秋季に伐ることをいい、黄葉初期（3分黄葉前後）が伐採の最適期となる。同様に伐採時期によって冬伐り、寒伐り、春伐りに分かれる。
寒蒔り	寒中（旧暦の大寒）の伐採をいい、シイ、カシ類の伐採適期
葉枯らし	葉干しともいう。伐採した原木の水分を抜くため枝葉のついたままで乾燥すること。
玉切り	伐採した原木を栽培目的に合わせて一定の長さに切ること。小切りともいう
形成層	樹皮部と木質部の中間にあって、内材、外に樹皮をつくる部分
あまはだ	形成層と樹皮の中間にある部分の俗称（韌皮）
辺材	立木時、生活機能を有する白色または色の淡い部分で、シイタケ菌糸は侵入しやすい。
心材	立木時、生活機能を有しない材の中心近くの色の濃い部分で、シイタケ菌糸は侵入しにくい。
さくら肌	樹皮の表面がサクラの樹皮に似てなめらかなものをいう。
ちりめん肌	樹皮の表面に小じわが多く、ちりめん状に見えるものをいう。
岩肌	樹皮の表面がかたく岩の肌のように見えるものをいう。
〔 植 菌 〕	
植菌	種菌（種駒、鋸屑菌）を原木に植え付けること。接種ともいう。
封ろう	パラフィンを主材としたひまく材料で、種菌の保護（乾燥防止、害菌予防）のために使用する。
鉋目栽培	原木に鉋目を入れてシイタケの孢子着生をまつ栽培法。天然栽培ともいう。
埋ほだ法	良いほだ木を木片にして原木に埋めこむ植菌方法。

用 語	意 味
〔 ほ だ 木 〕	
ほ だ 木	原木に種菌，種駒を植えこんだもの。
育成ほだ木	シイタケ菌糸がまん延中のほだ木。
用役ほだ木	シイタケ発生可能となったほだ木。
ほ だ 付 き	ほだ木にシイタケ菌糸がまん延した程度。
完 全 ほ だ	ほだ木全体にむらなく菌糸がまん延したもので丸ほだ，完熟ほだともいう。
新 ほ だ	伏せ込みが終わりシイタケが発生する状態になったもの。
一 年 ほ だ	ほだ木の年齢。植菌後1年未満のほだ木をいい，初年ほだともいう。
一 才 木	植菌後2夏経過したもので，2年ほだともいう（九州地方）。
古 ほ だ	発生の最盛期をすぎたほだ木。九州では，三才以降のほだ木をいう。
う わ ほ だ	菌糸がほだ木の表面近くのみにもまん延し，内部は生木状でまん延していないもの。
や わ ほ だ	菌糸はまん延しているが全体がやわらかい感じのもので，寿命が短い。
か た ほ だ	ほだ木全体がしまった感じで，樹皮に独特のつやがあり，収量が多く寿命が長い。
か る ほ だ	完全ほだではあるが，水分を吸収しにくく軽いもの，寿命は長いが発生は極めて少ない。
ほ だ 持 ち	ほだ木の寿命。
う き ほ だ	ほだ木の材部と樹皮部がはなれたもので害菌侵入，乾燥などで起こる。
黒 ほ だ	害菌の侵入などでほだ木が黒変したもの。
ざ れ ほ だ	害菌の侵入などで形成層がざらざらした状態となり，指でくずせるようになったほだ木（大分）。水ほだ（宮崎）ともいう。

用語	意味
はねほだ	ほだ起こしのとき，すてられる不良ほだ木（九州）。
廃ほだ	シイタケが発生しつくしたほだ木。
流れほだ	害菌に侵されてシイタケが発生しなくなったほだ木。
〔 伏 せ 込 み 〕	
伏せ込み	シイタケ菌糸を原木にまん延させるための作業で“本伏せ，寝せ込み（静岡），入れ木（九州）”ともいう。
仮伏せ	植菌後ほだ木を枝葉などで覆い温度，湿度を保持せシイタケ菌糸の活着を促す目的で行われる作業（方法，時期，期間をあやまると逆効果になる。）
笠木	直射日光を防ぐためにほだ木の上にかけた枝葉。
庇陰度	林木，笠木などが直射日光をさえぎる度合い。
菌糸紋	ほだ木の木口に現れるきのこ菌糸の紋様。
積み替え	ほだ木の上，下，密度をかえる作業。
〔 ほ だ 場 〕	
ほだ場	シイタケを発生させたり，ほだ木を休養させるための場所で，林内ほだ場と人工ほだ場がある。
ほだ起こし	シイタケが発生，採取しやすいようにほだ木をほだ場に移動し配列する作業で“ほた降ろし，立て込み”ともいう。
天地返し	ほだ木の上，下をかえる作業。
ほだまわし	ほだ木の表，裏をかえる作業。
ほださばき	仮伏せから伏せ込み場へ，伏せ込み場からほだ場へとほだ木を移動展開すること。
牛木	ほだ木を立てかけるための横木。

用 語	意 味
〔 発 生 ・ 採 取 〕	
周 年 栽 培	シイタケを四季にわたって発生させる栽培。
不 時 栽 培	シイタケの自然発生をみない時期に人為的に発生させる栽培。
抑 制	雨露を防いでシイタケの自然発生をおさえること。
浸 水	ほだ木を水につける作業で、水分と同時に湿度刺激を与える目的でも行われる。
浸 水 打 木	浸水したほだ木の木口をたたいて刺激を与え、シイタケの発生を促す作業
水 切 り	浸水したほだ木の余分な水分をとり除くこと。
芽 出 し	ほだ木からきのこを発生させる作業。
ほ だ 蒸 し	芽出しの一方法で、浸水後のほだ木をぬれむしろなどでかこうこと。
芽 切 り	ほだ木の樹皮をやぶってきのこが出てくること。
追 い 芽	芽出し後におくれて発生してくるきのこで“追い生え”ともいう。
作 り 子	浸水、散水、ほだ倒し、しけ打ちなど手を加えて発生させる作業とそれによって発生したシイタケ。
ほ だ 倒 し	ほだ木を地面に倒し、刺激を与えるとともに、水分の吸収をはかり、シイタケの発生を促す作業。
し け 打 ち	台風などの大雨のとき、ほだ木の木口をたたき、その刺激でシイタケの発生を促す作業。
日 和 子	雨にあわない水分の少ないきのこ。
雨 子	雨にあって水分を多く含んだきのこ。
走 り 子	一年ほだ木から発生したきのこで、“芽ナバ(宮城)、入れ木ナバ(大分)”ともいう。
春 子	春に発生したシイタケ。同様に発生時期によって秋子、寒子、土用子、藤子などという。

用 語	意 味
風 子	台風の影響で発生したシイタケ。
〔 乾 燥 ・ そ の 他 〕	
天 日 乾 燥	きのこを日光と風によって乾燥する方法。
木 干 し	きのこをほだ木についたまま自然に乾燥させる方法。
え び ら	きのこを乾燥する道具の1つで、木製または金属製の枠に金網などを張ったもの。
山 成 り	選別されていない乾シイタケ。
香 信	かさが全開せず7～8分開きで採取し乾燥したシイタケ。上，並，下，大，中，小に分かれる。
香 茹	冬茹のやや開いたもの。香信の肉厚のもの。
冬 茹	低温期に成長した肉の厚いシイタケを5～6分開きで採取し乾燥したもの。花，上，並，小粒に分かれる。
天 白 冬 茹	かさの表面に多数の白色亀裂がある冬茹。
茶 花 冬 茹	かさの表面に多数の茶色亀裂がある冬茹。
ふ 冬 茹	冬茹の形をしているが軽いもの。
ば れ 葉	採取時期のおくれなどで、かさが波うち不整形な乾シイタケで“ばれ”ともいう。
は ね	採取時期のおくれから、かさが反転した乾シイタケ。
欠 け 葉	採取時期のおくれ、取扱いの不適当などでフチの欠けた乾シイタケで“欠け”ともいう。
黒 子	採取時期のおくれ、または乾燥の失敗で黒色になった乾シイタケ。
に え つ き	シイタケの乾燥失敗品、褐色または黒色になったもので“にえ”ともいう。程度のひどいものはニカワ状になる。

用語	意味
やけ	シイタケの乾燥失敗品で、火力が強すぎて褐色に変色したものの。
こげ	シイタケの乾燥失敗品で、ヤケの度合いがひどいもの。
培養基	菌類の培養のために調整された栄養源で“培地”ともいう。
平塗法	ヒラタケのほだ木栽培における接種の一方法で原木の木口全面に鋸屑種菌を塗りつける方法
床伏せ	ヒラタケをほだ木の木口面から発生させるため、余分な部分を地面に埋める作業。
小屋掛け	ヒラタケのほだ木栽培において、明るさや湿度を調節して、きのこの形や色を調整するための小屋作り。
菌かき	エノキタケ、ヒラタケの鋸屑栽培において、きのこの発生をそろえるために接種した種菌の部分をけずり取る作業。
紙まき	エノキタケの瓶栽培で、きのこの伸長を誘導するために、瓶口に紙をまく作業。
足切り	ナメコを市場に出荷するために足を短く切りそろえる作業。
棚差し	きのこの箱栽培で、菌糸が順調に生育するよう通風のよい場所に設置した棚に並べかえること。

樹 種	方 言
ブ ナ	シロブナ・ブンナ・ホンブナ・ソマノキ・ヤマブナ
イヌブナ	クロブナ・イシブナ・モトスブナ・ワサブナ・ノジ
アカガシ	オオガシ・クマカシ・オオバカシ・ハビロ・ニブ
アラカシ	クロカシ・オオバカシ・アオカシ・ニブ・コカシ
シラカシ	ホソバカシ・ハナガカシ・メンガシ・カタギ・シロカシ
ウラジロガシ	シラカシ・ヤナギガシ・ハボソ・カタギ・コバガシ
イチイガシ	イチイノキ・イチガシ・イツチ・イチシイ・マガシ
ツクバネガシ	カワガシ・センバガシ・アマガシ・コガシ
ウバメガシ	パベ・イマメガシ・イソガシ・タニガシ・マメシバ・カタギ
コナラ	ナラ・ホウソ・イシナラ・ナラボウソ・ハサコ・サシカ
ミズナラ	オオナラ・ミズボウソ・ホウソ・ミズマキ・サシカ
ナラガシワ	カシワ・オオナラノキ・カシラッパ・コト・バタゴ
カシワ	カシヤギ・カシナラ・バタゴ・イイバ・オオバマキ
クヌギ	ドングリ・クニギ・マキ・ドウダ・メク・クノキ・メクヌギ
アベマキ	オクヌギ・ワタクヌギ・コルククヌギ・バクノキ・カワボウソ・ドウダ
クリ	シバクリ・ヤマグリ・シブグリ・クリノキ
イタジイ	シイ・シダジイ・クソジイ・ナガジイ
ツブラジイ	コジイ・アサガラジイ・マメジイ・タマノキ・ヒガンジイ
マテバジイ	マテガシ・マタジイ・ハビロジイ・トウジイ・フクエ・マテノキ
シリフカガシ	シタクボ・ネネシカタギ・ハトガシ・ヨシガシ・カワガシ
アカシデ	ソネ・ソヤ・ソロ・コシデ・アカオモ
イヌシデ	ソネ・ソロ・ソヤ・シロソヤ・ナンジャモンジャ・オモノキ
クマシデ	クチグロ・ソネ・シロキ・ソロ・カシゾノ
サワシバ	クチグロ・ミズシデ・サワブナ・ハナノキ・ムギカイ
ヤマザクラ	カバザクラ・カバ・ホンザクラ・マザクラ・ゴテンザクラ